

The background of the slide is a reproduction of Leonardo da Vinci's 'The Last Supper' fresco. It shows Jesus and his twelve apostles seated at a long table in a room with a coffered ceiling and several windows. The scene is captured in a dramatic, low-key lighting, with the figures' faces and hands highlighted against the dark background.

# 西洋美術史ゼミ

第9回

北方ルネサンス美術

発表者 あまずん

# 発表者について

あまずん

Twitter : @quii\_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

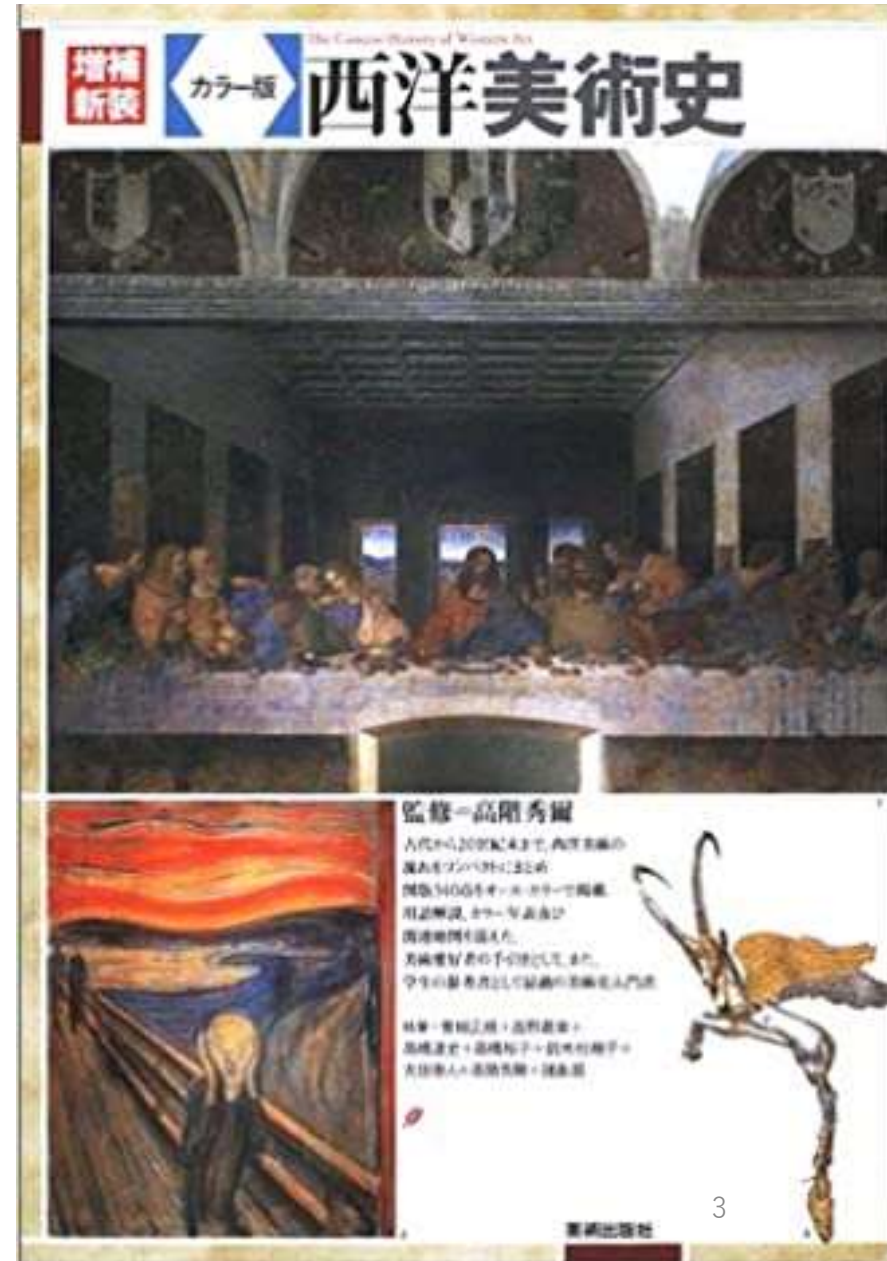
理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について  
興味があります。



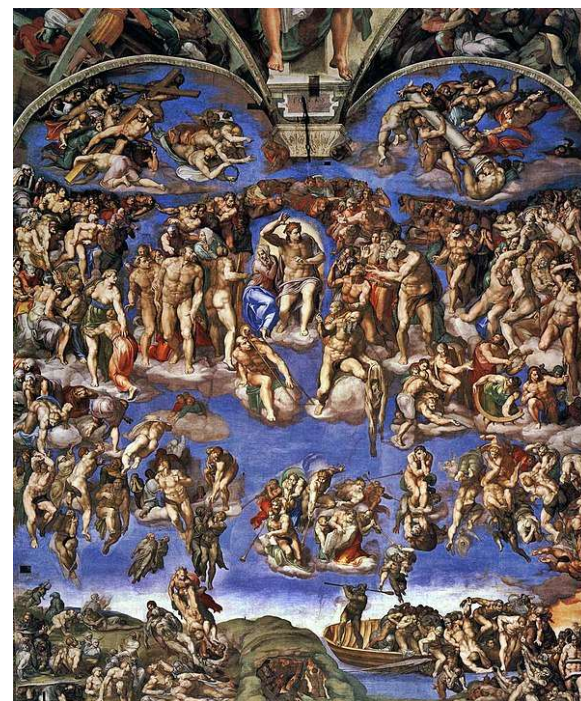
## ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



# 前回の内容

- 1490～1520の盛期ルネサンス美術では**レオナルド・ダ・ヴィンチ**や**ミケランジェロ**、**ラファエロ**、**ヴェネツィア派**が活躍し、その死後に新たな美術潮流である**マニエリスム**が興った。
- 北方では油彩技法が急速に発展し、**ヤン・ファン・エイク**や**カンピン**、**ロヒール**などの画家が活躍した。



ミケランジェロ 《最後の審判》

# 本日の内容

歴史について

- 宗教改革

美術について

- 北方ルネサンス美術

# 全体の概略

- 今回は、前回に引き続き**16世紀ネーデルラント美術**について学んだあと、**ドイツにおけるルネサンス**について学びます。
- **ネーデルラント**では、イタリア＝ルネサンスの影響を受けた**マセイス**や、謎めいた絵画で知られる**ヒエロニムス・ボス**、風景画や風俗画を描いた**ブリューゲル**などが活躍しました。
- **ドイツ**ではゴシック美術から継承された国際ゴシックの様式ののち、古典復興を志した**デューラー**が活動し、その後宗教改革のなかで絵画表現が変動しました。

# 本日の内容

- **美術史：16世紀のネーデルラント美術**
- 世界史：宗教改革
- 美術史：デューラーとドイツ美術
- 美術史：版画と彫刻
- 美術史：宮廷美術

# 16世紀のネーデルラント美術(1)

以下について学びます。

- ① クエンティン・マサイス
- ② ヒエロニムス・ボス
- ③ ピーテル・ブリューゲル



# クエンティン・マサイス

- 16世紀に入ると、ポルトガルがアジア貿易の拠点として利用した**アントワープ**（ベルギー）が美術の中心として発展した。
- アントワープにおける中心的な画家は**クエンティン・マサイス**であった。彼はダ・ヴィンチの影響を受けた優美な宗教画や、グロテスクな肖像画を描いた。
- 代表作は『**醜女の肖像**』『**不釣り合いなカップル**』である。



マサイス 《不釣り合いなカップル》

# ヒエロニムス・ボス(1)

- この時代、歴史的な位置づけが難しい画家として、数々の幻想的、非現実的絵画で知られる**ヒエロニムス・ボス**がいる。
- 彼は**宗教画**を描いたが、当時の本流とはかけ離れている奇矯で異端的な絵画であった。しかし、当時の王侯貴族には好まれていたようである。
- 代表作は『**快楽の園**』 『**最後の審判**』である。



ボス 《最後の審判（中央パネル）》

# ヒエロニムス・ボス(2)



ボス 《快樂の園》

# ピーテル・ブリューゲル(1)

- 宗教改革の進行により、美術製作が下火になった新教圏だが、ピーテル・ブリューゲルはプロテスタントの禁忌に抵触しない**教訓主題**や、風俗画の先駆けともいえる**農村風俗主題**の作品を数多く描き、数世代にわたり画家一族として栄えた。
- 代表作は『**バベルの塔**』『**農民のダンス**』『**雪中の狩人**』である。



ブリューゲル 《農民のダンス》

# ピーテル・ブリューゲル(2)



ブリューゲル 《バベルの塔》

# 本日の内容

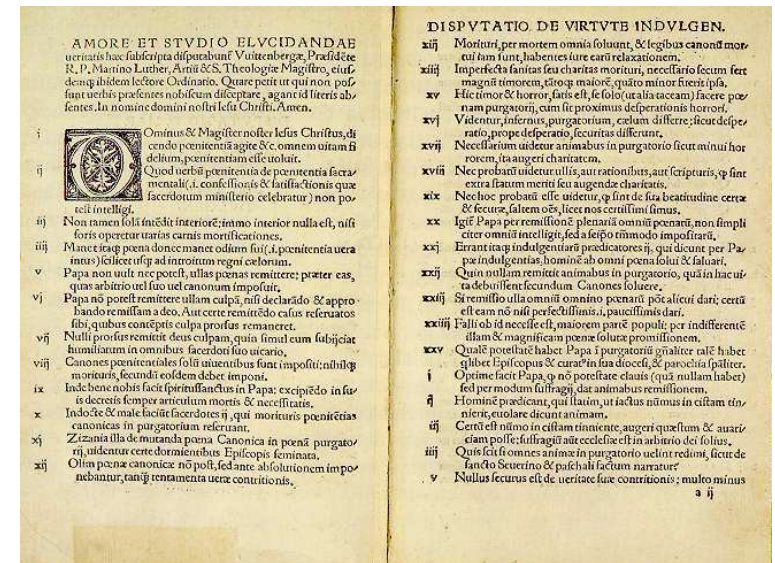
- 美術史：16世紀のネーデルラント美術
- **世界史：宗教改革**
- 美術史：デューラーとドイツ美術
- 美術史：版画と彫刻
- 美術史：宮廷美術

# 宗教改革

- 以下について学びます。
  - ① ルターの宗教改革
  - ② カルヴァンの宗教改革
  - ③ イギリスの宗教改革
  - ④ 対抗宗教改革

# 宗教改革とは

- 十字軍の失敗以降、ローマ教皇の権威は衰え、ローマ教会の**俗化・信仰の形式化への批判**が高まっていた。
- その中で**宗教改革**が起こり、聖書への回帰を目指してローマ教会の批判が行われた。
- 教会の支配からの解放は**主権国家の形成**を促進させることにもなった。



《95か条の論題》



# ルター(1)

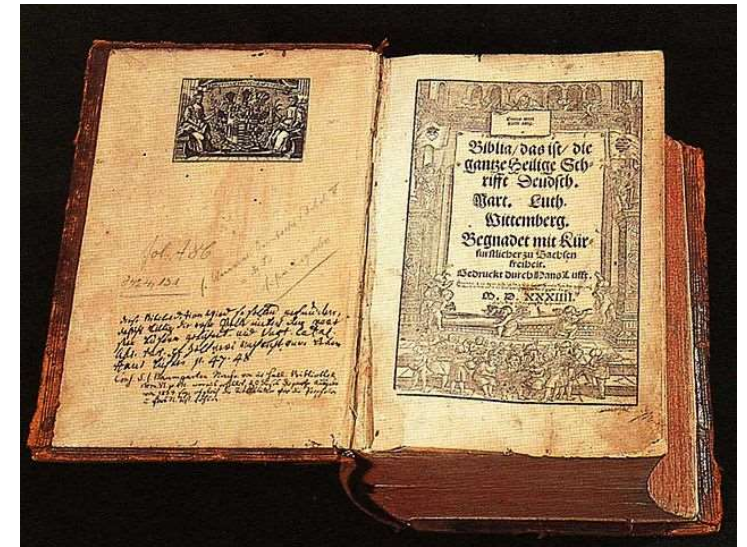
- 16世紀前半、**ドイツ**において、教皇レオ10世がサン=ピエトロ大聖堂建設の資金調達のために、教会に貢献すれば過去におかした罪も赦されると説き、ドイツで**贖宥状（免罪符）**を乱発していた。
- 1517年、**マルティン＝ルター**が「**九十五か条の論題**」でこれを批判し、**信仰義認説**を説いた。この出来事が宗教改革の始まりとされる。



クラーナハ 《マルティン・ルター》

## ルター(2)

- ルターは教皇に破門され、皇帝にも自説の撤回を求められたが応じなかった。
- しかしルターは教皇庁に反発する**諸侯や市民から広範な支持**を受け、保護されていた。
- 1555年にアウクスブルク宗教和議で新旧両派が妥協し、**諸侯はカトリック派とルター派を選択して信仰することが認められるようになった。**（しかし領民個人には信仰の自由はなかった。）



《ルター聖書》

# カルヴァン

- **スイス**では、人文主義者の**カルヴァン**（1509～1564）が独自の宗教改革を行った。
- 彼は魂が救われるかどうかは予め神に決定されているという**予定説**を唱え、禁欲と勤勉を重視した。
- 禁欲と勤勉の成果としての**蓄財を肯定**する思想は商工業者の支持を得た。



ホルバイン 《ジャン・カルヴァン》

# イギリス

- **イギリス**においては、王妃との離婚を教皇に反対された**ヘンリ8世**が国王を教会の首長とする**イギリス国教会**を創設した。
- イギリス国教会ではルターやカルヴァンの説を取り入れた教義を用いていたが、儀式はカトリックのものを受け継いでいた。



ホルバイン 《ヘンリ8世》

# 対抗宗教改革

- 宗教改革の進展を前に、**カトリック教会**は教義の明確化と内部革新を通じて教会を立て直そうとした。
- 1534年に**イグナティウス=ロヨラ**や**フランシスコ=ザビエル**らによって**イエズス会**が結成された。この会は教皇の許可を受け、海外でも積極的な宣教を行っている。
- また、この時代は新旧教徒の対立の激化から**魔女狩り**も行われた。



フランシスコ=ザビエル

# 本日の内容

- 美術史：16世紀のネーデルラント美術
- 世界史：宗教改革
- **美術史：デューラーとドイツ美術**
- 美術史：版画と彫刻
- 美術史：宮廷美術

# デュースラーとドイツ美術

以下について学びます。

- ① デュースラー以前のドイツ美術
- ② デュースラー時代のドイツ美術
- ③ デュースラー以降のドイツ美術

# デューラー以前のドイツ美術(1)

- 15世紀ドイツの美術は後期ゴシック美術として分類され、**国際ゴシック美術の流れをうけた宗教画**が中心であった。
- **ゴシック美術**について軽く復習しておこう。ゴシック美術はルネサンス前の中世美術であり、その前段階のロマネスクとは対照的に人間的、写実的なものであった。



聖ヴェロニカの画家 《聖ヴェロニカ》



## デューラー以前のドイツ美術(2)

- この時代の美術は**宗教画が中心**ではあったが、ネーデルラント絵画の影響を受けて、**古典的な写実主義の萌芽**が見られた。
- 中部ドイツの**ケルン**が一大中心地となり、**ロッホナー**をはじめとする画家が活動したが、その多くは作品名にちなむ便宜上の名が与えられた「**逸名画家**」であった。



ロッホナー 《薔薇垣の聖母》

# デューラー時代のドイツ美術(1)

- ドイツにおいて真にルネサンスを体現した画家は**デューラー**である。彼は**古代ギリシア・ローマ美術の「再生」**を志し、ドイツ美術に絶大な影響を与えた。
- この時代の代表的な画家は、デューラーに加えて**グリューネヴァルト**と**クラナハ**が挙げられる。



デューラー 《四人の使徒》

## デューラー時代のドイツ美術(2)

- デューラーはイタリア旅行の経験を通じて**イタリア美術から多くを吸収した。**
- しかし、**ドイツ特有の醜さをいとわない宗教画製作の伝統**から、理想美を追求するイタリアの美術理論に違和感を禁じえず、やがて自らの美術理論の構築を志した。



デューラー 《自画像》

## デューラー時代のドイツ美術(3)

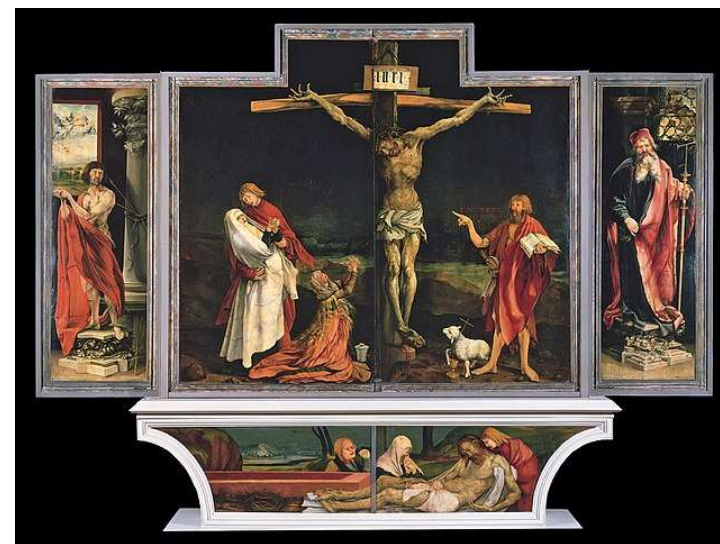
- デューラーは主に**油彩画と版画**を通して、生前のみならず死後の名声を意識した。
- 代表作は『**メランコリアI**』 『**四人の使徒**』であるが、彼は自画像を挿入するなど、絵画に**内面性を盛り込んだ点**でも特徴的であった。



デューラー 《メランコリアI》

# デューラー時代のドイツ美術(4)

- デューラーと同年に世を去った画家に**グリューネヴァルト**がいる。
- 彼はデューラーとは対照的に、**ゴシック美術の色彩主義**に、激しい色彩のコントラストによる**表現主義的な要素**を加えた独特な様式の絵画を描いた。
- 代表作は『**イーゼンハイム祭壇画**』であり、**後期ゴシックの爛熟**を示した。



グリューネヴァルト 《イーゼンハイム祭壇画》

## デューラー時代のドイツ美術(5)

- 最後に、**クラナハ**について述べる。
- 彼は**宮廷画家**であり、宗教改革の荒波にも絵画主題を変更することで対応し、新旧両教の君主からの大量の注文をこなした。
- そのため、彼は「**企業家**」と呼ばれ、きわめて裕福な生活を送った。代表作は『**アダムとイヴ**』で、**マネリス**的**で官能的な女性像**を量産した。



クラナハ 《アダムとイヴ》

# デューラー以降のドイツ美術(1)

- デューラーの死後のドイツ美術において名を成したのは、**ホルバイン父子**と**バルドゥング**である。
- **ホルバイン父**はデューラーより一世代上の画家で、**後期ゴシック風の宗教画と肖像画**を得意としたが、息子はその方向性を推し進め、当時にとっては**破格に写実的な人物表現**を達成した。



ホルバイン（子） 《大使たち》

## デューラー以降のドイツ美術(2)

- **バルドゥング**はデューラーの一番弟子で、**木版画**や**絵画**を描いた。
- **華やかな色彩**の扱いにおいては支障を凌駕し、むしろグリューネヴァルトの**表現主義的傾向**がある。
- 代表作は『**聖セバスティアン三連画**』である。



バルドゥング 《聖セバスティアン三連画（中央）》



# 本日の内容

- 美術史：16世紀のネーデルラント美術
- 世界史：宗教改革
- 美術史：デューラーとドイツ美術
- **美術史：版画と彫刻**
- 美術史：宮廷美術

# 版画と彫刻(1)

- 複製技術が発展する要因はえてして宗教的なものであるが、**版画**も**巡礼記念**や**護符の需要の高さ**から発展していった。
- 当初は聖人一人のみの簡素な木版画であったが、やがて聖書や聖人伝の複雑な物語場面をも主題とするようになり、**銅版画**の技術が発達した。
- その結果、**デューラー**や**ショーンガウアー**が大作を描くこととなった。



ショーンガウアー 《大天使ミカエル》

## 版画と彫刻(2)

- **木彫祭壇衝立**もまた、アルプス以北で生まれ発展したジャンルであった。
- 聖遺物収納のための衝立から派生し、やがて祭壇画へと発展した。
- 中には聖遺物の他に丸彫り彫像や浮彫が配置され、聖書等の物語場面が表現されていた。



リーメンシュナイダー 《聖血祭壇衝立》

# 本日の内容

- 美術史：16世紀のネーデルラント美術
- 世界史：宗教改革
- 美術史：デューラーとドイツ美術
- 美術史：版画と彫刻
- **美術史：宮廷美術**

# 宮廷美術

- 15, 16世紀アルプス以北の美術の発展にとって、大きな役割を果たしたのは各地の**宮廷における美術への興味関心の増大**であった。
- 宮廷で厚遇された画家として著名なのは**アルチンボルド**であり、**事物を並べて人物を描く**という風変わりな作品で知られる。



アルチンボルド 《春》

# 本日のまとめ

- 16世紀のネーデルラント美術では、アントワープを中心としてマサイス、ボス、ブリュウゲルが活動した。
- ルターやカルヴァンによって宗教改革が起こり、主権国家の形成を促進した。
- ドイツではデューラーによりルネサンスが興り、絵画と版画が盛んに制作された。



ブリュウゲル 《バベルの塔》

# 次回の内容

- 次回は**バロック・ロココ美術**について学びます。
- バロック美術は**カラヴァッジョ**の誕生から幕を開ける。ルネサンスの理想主義とも、マニエリスムの人工的な誇張とも異なる彼の**明暗表現**はローマ画壇に強い衝撃を与えた。
- 関連ワード
  1. カラヴァッジョ 《聖マタイの召命》
  2. ベラスケス 《インノケンティウス10世》



カラヴァッジョ 《聖マタイの召命》